芭蕉元禄事業　奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十七年八月度　入選句（投稿総数千六百六十五句・一般投句数七百三十一句）

選者　田中　青志

特選

あの空襲空は忘れて炎天下　　大垣市　多和田　一徳

あの大垣への大空襲は七十年前の七月二十九日とか、爆撃の予告ビラが前日大垣の空に舞ったとかの記事見ました。忌わしい戦争が終つて七十年、その時の空を知る人は少くなつたようですが、今後も語り継がれるべき事実と思います。

何もせぬ日があっていい猛暑かな　　大垣市　山田　千歌子

気温三十五度を越す日が何日もありました。暑いからと言つて何もせぬのには少し抵抗を感じます。しかしこの異常な暑さ今日くらいは何もしなくても咎める人はいないでしょうと一人で納得しています。

炎天を来て大垣の水旨し　　安八郡神戸町　高橋　日出美

大垣の湧水は年間を通じて二十度前後とか、炎天を歩いて来て喉を潤す水は美味しいに決まってはいますが大垣の湧水は格別なのです。各地からお出でになる人々がお世辞抜きでそのように仰しやるから信じてよいでしょう。有りがたいことです。

秀逸

乗る人の来ず船頭の昼寝かな　　愛知県岡崎市　矢田　あさの

言訳の舌が回らぬ跣足っ子　　大垣市　棚橋　みさを

自転車の白シャツ風を満帆に　　安八郡神戸町　後藤　和朗

待つと言ふ胸のときめき水を打つ　　大垣市　中山　あや子

人の世は花火のやうな夢ばかり　　揖斐郡大野町　藤田　涼子

秋暑し掛け違ひたる釦穴　　岐阜市　堀江　美州

兄弟の水鉄砲の果し合ひ　　大垣市　町野　眞佐子

手花火の終ふれば元の深き闇　　大垣市　伊藤　鈴子

鳴り止まぬ踏切の音油照　　岐阜市　石崎　宗敏

故里の卓袱台茄子づくしかな　　愛知県豊田市　城山　憲三

入選

戦争の語り部も老い原爆忌　安八郡神戸町　高橋　日出美

平泳ぎ泣き虫の孫優勝し　大垣市　杉﨑　郁子

動いても動かなくても只暑し　大垣市　棚橋　みさを

顔の前嬰の尻ある昼寝かな　不破郡垂井町　北村　廣美

木の蔭に紙置くやうに梅雨の蝶　揖斐郡揖斐川町　粟野　みねお

父越ゆる日はいつのこと朴の花　東京都日野市　熊澤　初江

子等去って残るぶらんこ風に揺れ　大垣市　今津　正元

戦後史のなかに自分史走馬燈　不破郡垂井町　児玉　信子

二人とは家族のはじめ稲の花　養老郡養老町　田中　秀子

つばめの子見てゐる子らも口を開け　愛知県名古屋市　舘野　茂子

入選

帰る子を見送る窓辺星月夜　大垣市　森川　きよ子

打水の庭にそろへて紅鼻緒　大垣市　川瀬　喜梅古

校庭の木立かがよひ梅雨上がる　揖斐郡大野町　藤田　涼子

打水や境界のなき親しさに　大垣市　清水　登美子

観覧車雲の峰より繰り出し来　岐阜市　堀江　美州

風鈴を吊るや飛びつく風のあり　大垣市　日比野　友子

涼しさは人の情や朝市女　不破郡垂井町　臼井　梅乃

そっと手に夜具ひき寄せて秋近し　大垣市　大角　信華

年取らぬ写真を拭いて盆支度　大垣市　伊藤　美翠

空およぐビニル袋の金魚かな　愛知県名古屋市　纐纈　敬吾

選者吟

ひとつ高く跳び炎天へ打つて出る　青志